



赤こんりポート 東恵子リポーター



念願の人工芝サッカー場でキック・オフ！

4月からの本格オープンを前に、健康ふれあい公園に完成したサッカー場の竣工記念イベントとして3月7日、スポーツ少年団大会（6年生の部）が開かれました。コロナ禍に台風も重なり延期になっていた10月の大会を「6年生の思い出に」と近江八幡サッカー協会が主催し市内8チームが熱い戦いを繰り広げました。結果、金田フットボールクラブが優勝、桐原ジュニアフットボールクラブが準優勝に輝きました。午後からは、シニアの試合もあり、大人も子どももサッカー場で笑顔が絶えない1日を過ごしました。サッカー協会会長の野元正一郎さんは「念願のサッカー場ができ夢がかなった。子どもたちに楽しくサッカーをしてもらいたい」と話していました。

赤こんりポート 馬場利男リポーター



地元愛で地域を盛り上げよう

「頑張る仲間を地域みんなで応援しよう」をテーマに、武佐学区まちづくり協議会の生涯学習推進事業として、コロナ禍の中、参加者を限定し2月25日、武佐コミュニティセンターでレザークラフト体験が開催されました。講師をつとめたカフェ「エヌクラスト」店主の西田孝行さんの指導で、参加者6人が、好きなスタンプを押した小物入れ「コインパース」や、刻印を打ちこんでブレスレットを作り上げました。出来上がった作品は各自で見せ合い、楽しい時間が過ぎました。

3月13日・14日



左義長まつり次世代へ伝統つなぎ1基奉納

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から各奉納町の山車制作が中止となった日牟禮八幡宮の「左義長まつり」（国選択無形民俗文化財）は、全町の思いと疫病退散祈願を込め左義長保存会が制作した左義長1基が連日、日牟禮八幡宮の楼門前に設置。2日目の夜は左義長に火が放たれ異例となった春の祭典の幕を閉じました。奉火の際には、奉納町の若者らが集まり、燃え盛る左義長の周りで「チョウヤレ」「マッセマッセ」など掛け声を挙げて乱舞し、来春の通常の祭り開催を待ち焦がれていました。

2月13日



高校生が持続可能な地域の魅力づくりを考える

近江八幡未来づくりキャンパスの成果発表会として、未来づくりミーティングが、ヴォーリス学園の平和礼拝堂でオンライン方式を取り入れ開催されました。市内外の高校生がフィールドワークなどを通じて本市の魅力を発見し、地域との関係を築きながら、持続可能な地域社会づくりについて考えました。「コロナ禍でのSDGs ツーリズム」をテーマに、本市の特産品に2次元コードをつけ、近江八幡の風景や生産者の思いを映像と共に届けるなどのアイデアが、各チームからプレゼンテーションがされた後、小西市長らと交えたパネルディスカッションが行われました。

2月27日



1人1人の個性生かし「ビッグペインティング」

馬淵学区子ども育成会ジュニアリーダー6人が、「ビッグペインティング」の完成作業を馬淵コミュニティセンターで行いました。コロナ禍の中で「3密」を避けながら、みんなで楽しい取り組みをしようと検討を重ね、一人一人の個性あふれた作品を組み合わせる大きな絵を完成させる取り組みを決定。馬淵小の全校児童に参加を呼びかける一方で、校名にちなんで決めた「野原を駆ける馬」のデザインの各パーツの画用紙を参加希望の26人に渡し集まった絵を貼り合わせて仕上げました。完成した絵は、卒業式が行われた小学校体育館でも展示されました。

3月4日



「64年間ありがとう」桐原幼稚園で閉園のつどい

学区内のこども園の整備に伴い、8,677人の卒園生らを送り出し3月末で64年間の歴史に幕を下ろした桐原幼稚園で、閉園を前に、在園児やPTA役員などあわせて約170人が集まり閉園のつどいが開催されました。PTAの手話クラブや絵本クラブのメンバーが手話を交えた歌や寸劇を披露したり、スライドショーで園の歴史を振り返ったりしたあと、参加者全員で園歌を合唱し閉園を惜しみました。また、最後にPTAから教職員への感謝の気持ちとしてお花とメッセージ贈呈のサプライズがあり園児たちが「ありがとう」の言葉と共に手渡していました。

2月20日



第一人者の講演からヴォーリス建築の神髄にふれる

名誉市民ヴォーリスの精神の継承普及を目指すNPO法人ヴォーリス倶楽部主催による、第1回ヴォーリス・アカデミー講座がヴォーリス建築の第一人者である大阪芸大名誉教授の山形政昭さんを講師に招き、ヴォーリス学園の平和礼拝堂で開催されました。山形さんは、建物の外観ではなく人の健康を考えた清潔性や機能性などを重視したヴォーリス建築の特長などを紹介するとともに、今も現役で使用されているハイド記念館に場所を移し行われた現地見学会では建物が丁寧にメンテナンスされているたまものであることを説明、参加者は熱心に聴き入っていました。

滋賀県広報コンクールで3年連続知事賞を受賞！

広報紙部門受賞は21年ぶり！



令和2年度滋賀県広報コンクールで、広報おうみはちまん11月号が、広報紙の部で最高賞の知事賞を受賞しました。知事賞受賞は、平成30年度、令和元年度の広報写真部門に続き3年連続、広報紙の部では平成11年度以来21年ぶり。審査では「迫力ある表紙写真で思わず手に取る広報紙」「文章もよく取材して書かれている」などの評価を受けました。今後も市民の皆さんに親しみやすく読みやすい広報紙を目指します。なお、映像の部でも本市の「Sharu Omihachiman」が知事賞を受賞し、広報紙と映像部門の2部門のダブル受賞も21年ぶりの快挙となりました。